

ヴァイオリニストTAIRIKの戯言

〔第63回〕

弦が揺れると、僕は季節の風になる

文 佐田大陸

text by Tairik Sada

推していたら「通」かも
ビオラという楽器をご存知でしょうか。

先日、長野にある「長野市芸術館」でビオラのリサイタルをしました。今回は魅力をもっと伝えたく、筆を……いや、スマホを取りました。

とはいえこの楽器、残念ながらどうもパツとしない部分が目についてしまうのも事実です。というのも、ビオラは室内楽やオーケストラにとつて欠かせない存在でありながら、同じ弦楽器のヴァイオリンやチェロと比較すると、知名度で劣ってしまいます。

メロディラインを華々しく歌う花形のヴァイオリンと、低音の魅力溢れるチェロに挟まれたビオラは、間をつなぐ縁の下の力持ち。会社という中間管理職的な役割の多さから、どうしても目立ちにくく、「地味」という印象になってしまいがちです。

世界にはそんなビオラを揶揄する「ビオラジョーク」なるものが数多く存在します。有名なものをいくつか紹介します。

Q「雷とビオラ奏者の指の共通点は何でしょう？」

A「決して同じところに二度と落ちない」

Q「ビオラがヴァイオリンに勝っている点は何でしょう？」

A「焚き火にしたら、より長く燃える」

Q「ヴァイオリンを盗まれないようにするにはどうしたらいいですか？」
A「ビオラのケースに入れておく」

など、これでもかと言わんばかりの痛烈なデイス、散々な言われようです。

確かに、19世紀まではソロの楽器としてはあまり見なされておらず、伴奏に徹することが多かったのですが、ビオラの音を愛した作曲家はたくさんいました。モーツァルト、シューベルト、ブラームス、バルトーク、ヒンデミット……ビオラを使った名曲はこの世にたくさんあります。天皇陛下もビオラを愛し、演奏なさるのは有名です。

多くの人に支持される理由は、ビオラの「音」にあります。

ヴァイオリンにもチェロにもない「人の声に近い魅力的な音」に、僕も心をつかまれています。2002年9月から2018年6月までベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者兼芸術監督を務めたサイモン・ラトル氏がビオラについて、とても素晴らしい言及をしています。

「ビオラは影の立役者。主旋律を奏でることは少ないがビオラ抜きにオーケストラは成り立たない。ワインに例えればヴァイオリンはラベル。チェロがボトル。そしてビオラが肝心の中身だ」
本当に大切なことは、皆が当たり前のように感じているような、普段意識してい

ないところにあたりするものです。

この記事をたまたま読んだのは何かのご縁です。ビオラの音にぜひ触れてみてください。もしかしたら、すべての楽器の中で、人生に深みやコクを一番与えてくれる楽器は、ビオラかもしれません。

profile

TAIRIK (たいりく) Violinist/Violist/Composer
長野県諏訪市出身。桐朋学園大学音楽学部、同大学院修了。2008年12月にヴァイオリン & ピアノによる3人組インスト・ユニット「TSUKEMEN」を結成。2010年3月にメジャーデビュー。デビューから500本を超える公演を開催し、現在までに40万人以上の観客を動員。LIVE活動は日本国内にとどまらず、アメリカ、アジア、ヨーロッパに及ぶ。最新アルバム「HAPPY キッチン」など、リリースしたCDはクラシック・チャート1位を次々と獲得。
コンサート、作曲活動の他、「徹子の部屋」「題名のない音楽会」等数多くのTV番組に出演。2021年より、NHK きょうの料理「栗原はるみのキッチン日和」にてパートナーとしてレギュラー出演中。https://www.tsukemen3.jp

